

A 105 食味嗜好性に関する『嗜好比トライアングル解析法』の提案と適用例
 岡山大教育 小野謙二 ノートルダム清心女大家政 ○宮田義昭
 岡山県立短大 田口田鶴子

【目的】われわれは、これまで個人または集団の食味嗜好性の年齢、性別等による相違を示すために、甘・酸・塩の各食味に対する嗜好度に基づいて甘味対酸味、酸味対塩味といった食味間の「嗜好比」を解析の手法としてきた。前回(37回大会)ほさらに甘・酸・塩味の3食味間相互の嗜好比の強弱関係を総合把握する方法として、3つの「嗜好指数」により示される逆三角形「食味嗜好比トライアングル」を提案した(図)。今回はさらに年齢性別等の違いによる食味嗜好性の異同(すなわち嗜好三角形の類似度)を検定する方法につき検討した結果を報告する。

【方法】被検者個人ごとの甘-酸、酸-塩、塩-甘の各食味嗜好に基づき、年齢、性別ごとに平均値±標準偏差を算出し、さらに相互に対応する嗜好比ごとにも検定を行って、嗜好比三角形どうしの間の同時比較解析に供した。本法によれば食味嗜好性の異同は、3つの嗜好比それぞれにつき、各対応する集団嗜好指数の間の有意差の有無から、少なくとも8種類($2^3=2^3$)に分けて考えることが出来る。

【結果】以上の方法により、幼児から老年期にいたる加齢に伴って、性別および各年齢における食味嗜好性に著しい差異を生じることが認められた。またわれわれの提案する「食味嗜好比トライアングル解析法」がこのような嗜好性の差異の検定について、視覚的、統計解析的したがってコンピュータ解析上の有力な手段となり得ることが実証された。

